3 みんなで取り組む3つの対策

国・静岡県・菊川市・地域の皆さまの連携により、流域全体で浸水被害の軽減に取り組みます。

1 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水をため、ゆっくり流すことで水があふれるのを防ぎます。

- ■国（国交省）
  河道掘削　樋門改築
- ■静岡県
  河川整備の検討
  適切な維持管理
- ■菊川市
  ため池活用・水田貯留の推進
- ■静岡県
  一定規模以上の雨水浸透阻害行為の許可
- ■菊川市
  調整池・校庭貯留の設置

2 被害対象を減少させるための対策

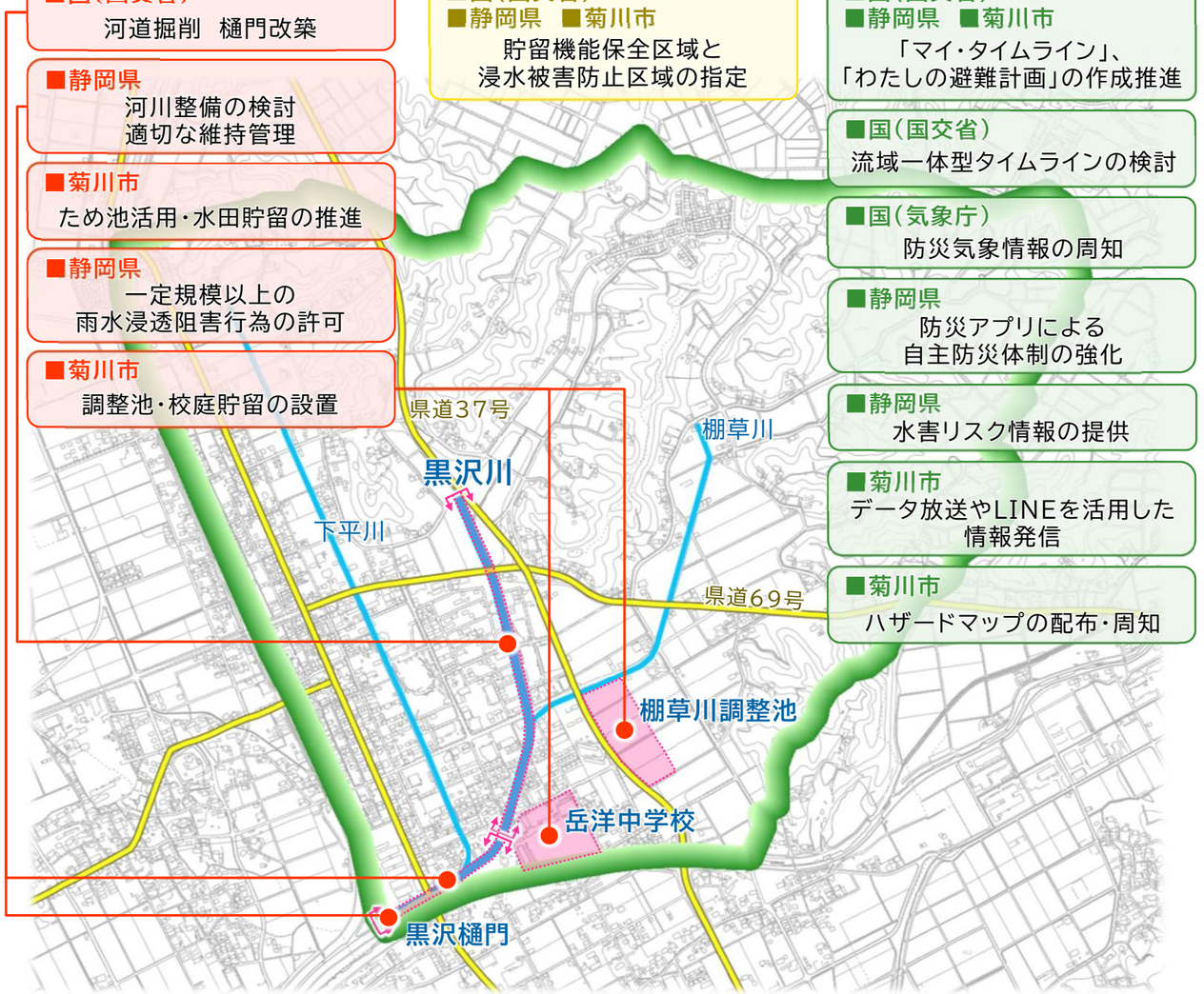
土地利用の工夫により、浸水被害の拡大を防ぎます。

- ■国（国交省）
  ■静岡県　■菊川市
  貯留機能保全区域と浸水被害防止区域の指定

3 被害の軽減 早期復旧・復興の対策

日頃からの備えと情報共有で被害を軽減し、早期復旧につなげます。

- ■国（国交省）
  ■静岡県　■菊川市
  「マイ・タイムライン」、「わたしの避難計画」の作成推進
- ■国（国交省）
  流域一体型タイムラインの検討
- ■国（気象庁）
  防災気象情報の周知
- ■静岡県
  防災アプリによる自主防災体制の強化
- ■静岡県
  水害リスク情報の提供
- ■菊川市
  データ放送やLINEを活用した情報発信
- ■菊川市
  ハザードマップの配布・周知



わたしたちにできること

- ✓ お住まいの地域のハザードマップを確認しましょう
- ✓ マイ・タイムラインや避難計画を作成しましょう
- ✓ 災害の際は避難情報を確認し、早めに避難しましょう
- ✓ 土地利用や地区保全など、地域の取り組みに参加・協力しましょう

安心・安全なまちづくりのために、
できることから一緒に取り組みましょう！



お問い合わせ先

国土交通省　中部地方整備局
浜松河川国道事務所　流域治水課
■TEL：(053)466-0116
■E-mail：
cbr-s854460@mlit.go.jp

第１６回
菊川水系流域委員会
参考資料－１

菊川水系 黒沢川 流域水害対策計画

～みんなで取り組む流域治水～



令和８年11月

国土交通省中部地方整備局
静 岡 県
菊 川 市

流域全体で力を合わせ、未来の安心・安全なまちへ

黒沢川流域では、台風や大雨によりたびたび浸水被害が発生しています。
国・静岡県・菊川市、そして流域で暮らす皆さまが互いに連携し、
河川整備や貯留施設の整備、土地利用の工夫、防災・減災の取り組みを
一体的に進めることが重要です。



菊川水系黒沢川流域水害対策計画

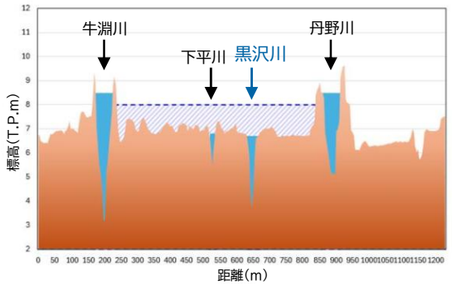
1 黒沢川流域水害対策計画とは

黒沢川（くろさわ）流域は、地形特性により雨水がたまりやすく、浸水被害が発生しやすい地域です。
また、近年は気候変動の影響により、豪雨の頻発化・激甚化が進んでいます。
この計画は、河川整備だけでなく、ため池や田んぼダムの活用、雨水貯留・浸透施設の整備、土地利用の工夫、防災対策などを流域全体で進め、浸水被害の軽減を目指すものです。

1 黒沢川流域の特徴

黒沢川流域は、牛淵川（うしぶち）と丹野川（たんの）の堤防に囲まれていることや
周囲の河川で同時に水位が上がり、排水が制限されることなどから
降った雨が流域内にとどまり、**内水氾濫※**が発生しやすい地形です。

※内水氾濫（ないすいはんらん） … 河川からの水ではなく、
下水道や側溝、排水路の排水能力を超えた雨水が
地面にあふれて浸水すること。



2 過去の浸水被害

昭和57（1982）年9月の台風第18号では、**過去最大となる108ha（ヘクタール）の浸水**が発生しました。
近年では、令和元（2019）年10月の台風第19号により、**床上・床下あわせて81戸の浸水被害**が発生しました。

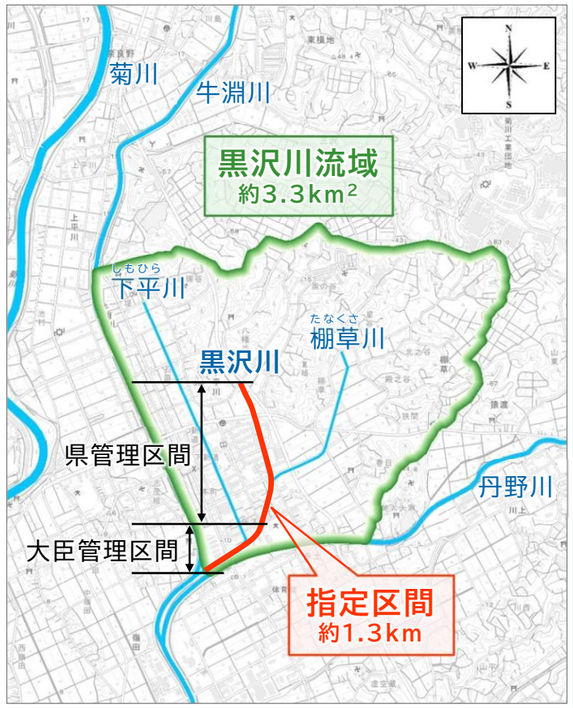
発生年月	流域平均雨量［/3時間］	浸水面積	床上浸水	床下浸水
1982年9月	**132mm**	108ha	不明	不明
1998年9月	121mm	35ha	不明	不明
2013年4月	95mm	17ha	1戸	8戸
2014年10月	122mm	25ha	2戸	19戸
2019年10月	**137mm**	21ha	22戸	59戸
2022年9月	207mm	46ha	0戸	5戸



2014年10月 浸水状況


2019年10月 浸水状況

3 計画対象区域



特定都市河川の指定区域

【流域面積】約3.3km²（菊川市の一部）
【河川延長】約1.3km
（大臣管理区間：0.45km、県管理区間：0.85km）
【上流端】菊川市大字下平川字橋上5112番の1地先
【下流端】牛淵川への合流点

4 計画の目標

水害対策の目標は、気候変動により**平均気温が2℃上昇**した場合を想定し、将来予測される雨量の増加を考慮し設定しています。
黒沢川流域では、**年超過確率1/20※の降雨**を対象に、流域全体で対策を進め、被害の軽減を目指します。

※20年に1回程度の発生確率を持つ大雨

降雨量［/3時間］	想定する雨の降り方
130.6mm	**中央集中型降雨波形**（雨の強い時間帯が中央に集中する降り方）

5 計画期間

国や県、市の計画と連携しながら、**おおむね20年**で対策を進めます。
※必要に応じて見直しを行います。



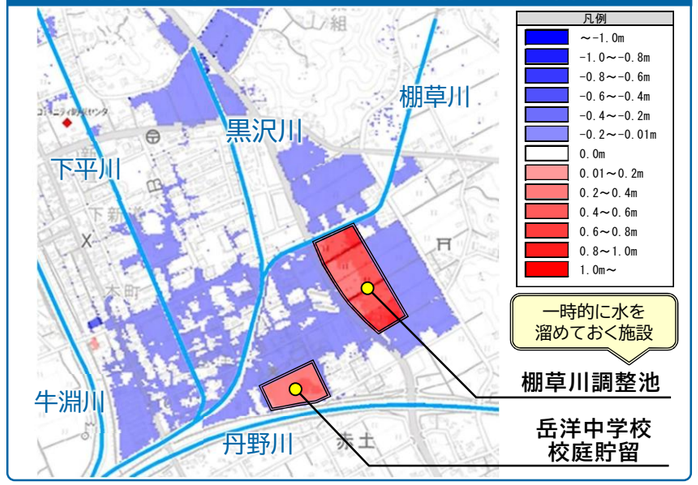
2 主な対策と被害軽減効果

1 河川や施設整備による効果

※できるだけ厳しい条件でのシミュレーションとしているため、降雨の状況等によって効果は変わります。

気候変動を考慮した降雨に対し、**河川整備**や**流域対策**を実施することで、被害を軽減します。

浸水差分図（青：対策によって浸水が減る箇所）



被害軽減効果

■浸水戸数

現 況 188 戸
↓
対策後 162 戸
26戸減少（約14%減）

■浸水面積（ha）

現 況 約17.3ha
↓
対策後 約15.5ha
約1.8ha減少（約10%減）

床上浸水の軽減
住宅や家財の被害を軽減する

被害の最小化
道路冠水や通行止めのリスクを最小化する

早期復旧
被害の早期復旧・暮らしの安心を守る

2 流域全体での取り組みによる対策

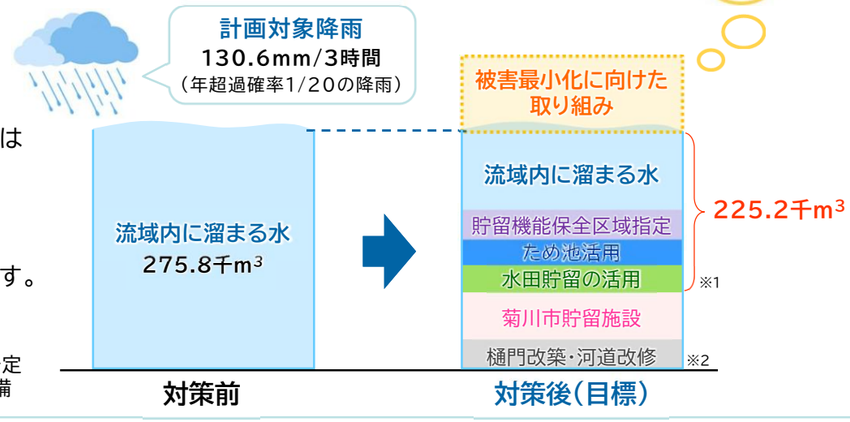
水害に強いまちをつくるためには、**流域に関わるすべての人の協力**が不可欠です。
流域全体で対策に取り組むことで、安全で安心な暮らしを守ることにつながります。



流域分担計画

川の整備だけでは、
浸水被害を防ぎきることは
できません。

流域全体で
できることを**分担**し、
被害の最小化を目指します。



※1 今後、流域の関係者と調整予定
※2 現行河川整備計画による整備

菊川水系黒沢川流域水害対策計画